

テ以テ商子ニ告グ商子曰ク橋ハ父ノ道也梓ハ子ノ道也二子再ビ周公ヲ見ル門ニ入リテ趨ル堂ニ登リテ跪ク周公其首ヲ拂ヒ勞シテ之ニ食ス  
(以下嗣出)

## ○本草綱目和刻本ノ一

牧野 富太郎

私ハ本誌ノ第七號ニ於テ和刻本即チ我日本ニテ翻刻セラレタ李時珍ノ本草綱目ノ種類ヲ舉ゲテ書イタガ其後更ニ別ノ一本ヲ得タカラ其追加トシテ茲ニ之ヲ紹介シヨウト思フ

今回私ノ得タノハ 大字正誤本草綱目ト表題ノアルモノデ其版本ハ江西本、新刻本並ニ若水本ト同一デアル私ノ見ル

所デハ之レガ若水本ノ直グ前ニ來ルモノデ即チ新刻本ノ次ニ出來タモノデアルコトガ推想セラル、私ハ始め書中ノ子持線即チ雙線輪廓ノ内細線ヲ削リ去リテ獨ダ外巨線ヲ殘シ以テ單線輪廓ニシタノハ其返リ點並ニ訓點ヲ訂正スル便宜ノ爲メ若水本ノ時之ヲ其様ニ改メタト思ツテ居ッタ處今此大字正誤本ノ綱目ヲ見ルト決シテソウデハナクテ其若水本ノ前驅タル此書ガ既ニ其單線式ヲ決行シテ居リ之ガ若水本ニ移ツテ行ツテ居ルコトガ分ツタ然シ此大字正誤本ニハ發行所ノ名モ發行年月モ共ニ記シテナイカラ何レ京都デハアロウガ書肆ノ名モ年號モ一切分ツテ居ナイ

私ノ書齋ニハ八通りノ和刻本草綱目ガアルガ然シマダ一二部無イモノガアル即チ承應二年出版ノ 西江 本草綱目ハ其一デアルガ本草書ヲ藏スルコト我社會デノ巨擘白井博士ハ之レヲ所有シテ居ラル、

## ○本草綱目第十四卷ノ荏ノ本文

牧野 富太郎

荏別錄  
上品

ㄟㄣ

校正  
自糸部  
移入此

釋名  
白蘓

荏

音魚弘景曰荏狀如蘓高大白色不甚香九月採  
蘓字但除禾邊故也

集解

弘景曰

荏狀如蘓高大白色不甚香九月採  
陰乾其子研之雜米作糜甚美下氣補益東  
人呼為蘓筆其子作油日煎之即今油帛及和漆  
所用者服食斷穀亦用之名為重油恭曰荏葉人  
常生食其子故不及蘓藏器曰江東以荏子為油  
北土以木麻為油此二油俱堪油物若其和漆荏  
者為強爾炳曰又有大荏形似野荏高葉大小  
荏一倍不堪食人收其子以充油絹帛與大麻子  
同其小荏子欲熟人採其角食之甚香美大荏葉  
不堪食頌曰白蘓方莖圓葉不紫亦甚香實亦入  
藥魚蘓似茵陳大葉而香吳人以煮魚者一名魚  
蘓生山石間者名山魚蘓主休息痢大小便頻數  
乾米飲調服之効說曰蒸令熟烈日  
乾之當口開春取米食之亦可休糧

荏一倍不堪食人收其子以充油絹帛與大麻子  
同其小荏子欲熟人採其角食之甚香美大荏葉  
不堪食頌曰白蘓方莖圓葉不紫亦甚香實亦入  
藥魚蘓似茵陳大葉而香吳人以煮魚者一名魚  
蘓生山石間者名山魚蘓主休息痢大小便頻數  
乾米飲調服之効說曰蒸令熟烈日  
乾之當口開春取米食之亦可休糧

本草綱目第十四  
卷、草之三、芳  
草類ニ荏ガアッ  
テ蘇ト水蘇トノ  
間ニ置カレテア  
ル然ルニ和漢ト  
モ其重刊ノ本草  
綱目ニ網目ニ原刻本  
アル明版ノモノハ其  
原刻本デアルモノハ其  
本草綱目ハ皆此重刊  
本ヲ翻刻シタモノデ  
アルニハ卷頭ノ目  
次中ニハ其名ガ  
記シテアレドモ  
然レドモ其本文  
ニハ皆之レガ落  
チテ居ッテ荏ノ  
文章ガ見附カラ  
ナイ和刻本デハ  
唯若水本ノミガ

葉氣味

溫孟 誼

主治

調中去臭氣

別錄

搗傳蟲咬及男

子陰腫

藏器

生搗和醋封男子陰腫女人脛裏內三

四易

孟誼

調氣潤心肺長肌膚益顏色消宿食止上

氣欬嗽去狐臭傳蛇咬

大明

子氣味

辛溫無毒

誼曰

多食發心悶少破氣

主治

咳逆下氣溫

中補體

別錄

止嗽補中填精髓

大明

生食止渴潤肺

孟誼

發明

附方

舊二

男子陰腫

見

蛇虺中人

以荏葉爛杵猪脂和薄傅上

梅師

方

特ニ之レヲ補フ  
テ居ル今上ニ其  
全文ヲ右ノ若水  
本カラ寫眞デ縮  
寫シテ掲ゲ他ノ  
荏ノ本文ナキ本  
草綱目ヲ所持セ  
ラル、人々ノ參  
考ニ供スルコト  
、シタ  
小野蘭山ノ本草  
綱目啓蒙ヲ見ル  
ニ卷之九荏ノ條  
下ニ『原本目錄  
ニ在リテ本條ヲ  
闕ク新校正ニハ  
證類本草ヲ以テ  
補フ』ト書イテ  
アル此新校正ト

ハ即チ上述ノ若水本ノ事デアル此レヘ補入シタ荏ノ文ハ前述ノ如ク蘭山ニ從ヘバ本草綱目カラデハナクテ證類本草カラデアルトアルガ然シ證類本草ノ文ト此新校正本ノ文トヲ比較スルニ其間自ラ異同ノアル所ヲ見ルト若水ガ證類本草ノ文ヲ參酌折衷シテ之ヲ綱目式ニ書キ直シタコトニナル譯デアアル前記啓蒙ノ記スル所ニ從ヘバ本草綱目ニモ矢張此レガ關ケテ居ル様ニ推シ考フルコトガ出來ルガ然シ蘭山ガ原本ト指シタノハ原版即チ第一版ノ綱目ダカ又ハ重刊即チ第二版ノ綱目ダカ或ハ啓蒙ノ原本トシテ唯汎ク綱目ヲ言ッタノダカ其邊ガ餘リ判然シナイ然シ此荏ノ本文ノ存否ハ初版即チ明版ナル原刻本ノ綱目ヲ見レバ直グ解決ノ附クコトデアアル想フニ蘭山トモ云ハルハ人ガ其原刻版ノ綱目ヲ見ヌコトモナカロウカラ事ニヨッタラ或ハ初版ノモノニモ之レガ關ケテ居ルカモ知レナイ私ハマダ初版ノ綱目ヲ見ルニ及バナイカラ殘念ナガラ今此處デハ何ントモ言フコトガ出來ナイガ孰レ其内ニ之ヲ閱シテ其如何ヲ後號ニ載セヨウト期シテ居ル

## 〇一二ノ備中產植物ニ就テ

岡山縣備中高梁町

吉野善介

日本產あづみ屬新種ト題シテ植物學雜誌第二十七卷第三百二十四號二六三頁ニ理學博士中井猛之進氏ガ發表セラレタル *Cirsium Yoshinoi* NAKAI. ハ從來やあづみ即チ *C. spectatum* MATSUM. トシテ吾人ノ間ニ呼バレタルモノニシテ備中ニ於テ最モ普通ナル薊ナリ、初メ同博士ハ之レヲやあづみト別チテたいあづみ (*C. incompnum* NAKAI.) トナセシガ後マタたいあづみトモ別チテ上記ノ新學名ヲ創定セラル、ニ至レリ、たいあづみト本種トノ區別ハ總苞片ノ最内者ト最外者トノ長サノ度合及ビ粘着性ノ有無ニ在リトセルモ予ガ阿波、長門、橫濱等ヨリ得タルたいあづみト比較スルニ種々ノ變化相似アリテ到底截然タル區別ヲ其間ニ見出スコト能ハズ、故ニ予ハ *C. Yoshinoi* NAKAI. ヲ以テたいあづみノ一形ニ過ギズト疑フモノナリ